



始業式



サイバー犯罪防止講習会



あいさつ運動

Vol.7

2019.6

目次

学校長挨拶	
キャリアデザインと進路選択	2
主事・専攻科長挨拶	
ソーシャルドクター	3
自分らしさを忘れずに	3
学寮の目標・学校への影響	3
専攻科20年これから!	3
学級担任等の紹介	4
新任教職員挨拶	5
平成30年度卒業式・修了式	6
平成31年度入学式	7
新入生に贈る言葉	8~10
令和元年度行事予定	10
関東信越地区高等専門学校体育大会開催案内	11
オーストラリア語学留学	12
活躍するOB・OG	13
部活動報告	14
小山高専地域連携協力会会員紹介	14
学寮ニュース	15
学生会ニュース	15
学生時代の思い出	16
研究室紹介	16



独立行政法人国立高等専門学校機構

小山工業高等専門学校

National Institute of Technology, Oyama College



キャリアデザインと進路選択

校長 大久保 恵

皆さんの学業の最終目標は、社会で働くことでしょう。将来、技術者や開発研究者を志し、小山高専に入学し、勉学に励んでいると思います。現在、本科に対する求人は28倍（平成30年度）と、高専生に対する求人熱はますます高くなっています。にもかかわらず、大学の例ですが、卒業生の就職後の3年以内の退職率が3割にも達するという、相反する問題が顕在化しています。企業と学生とのミスマッチ、学生側の意識や就職観の未成熟、企業側の獲得競争の弊害などが要因と考えられます。学生にとって就職は生涯にわたるキャリアデザインに直結する大仕事であり、高い意識で備えておくことが大切です。就職する場合の大切と考えている事柄を皆さんに伝えておきましょう。

まず、基本的な考え方が重要になります。「自分の夢は何か、大きな目標は何か、社会で何をしたいのか、今自分は何ができて何が足りないか、何が必要か」をキャリアデザイン等を通してよく考えておいてください。

次に必要なのが企業研究です。一口に企業といっても千差万別ですので四季報やWeb等でできるだけ詳しい内容把握に努めることは最低必要ですが、実際に見学や説明会にも参加して自分の目で見て、確認しておくことが何より重要です。教員や先輩のお話しも参考になります。本校学生の最近の傾向では、日本を代表するような大手企業に多数採用され、本校の評判を押し上げています。ただすべての学生にそれが最適かどうかは一考する必要があります。大企業はよく名が知られており、扱う仕事量も大きく、給与も一般的には高いし、研修や福利厚生が整っているなど、魅力的でメリットが多い。しかし、組織が大きいいため異動や転勤が多い、責任ある地位に就くのに長い年月を要し、ともすると歯車感覚に陥ることもあり、多数の社員の中で競争が厳しい、などのデメリットも認識しておいたほうがいい。また安定だから大企業と決めているとすれば早計です。大企業といえども経営を誤ると他社に吸収合併など最近でもありました。晩生の人や競争に馴染まないタイプなど学生によっては大企業より社長の顔が見える中小企業の方が合っている場合があります。オールラウンドな活躍を指向する人の中には会社の経営者のそばで仕事ができる中小の方が向いているかもしれません。なお、本校の地域連携協力会会員企業約160社の中には大手に負けない意欲的な取組をしている企業が多いことも強調しておきます。

三つ目は、自己分析です。相手（会社）を納得させるためには相手を知るだけでなく自分を客観的に分析しておくことです。そこで自分の過去・現在・未来について整理しておきましょう。まず、自分の過去、特に高専でどんな経験をしてきたか、学業中心に振り返っておくことです。何の専門分野をどれだけ学んできたか、その成果はどうか、を具体的に自分のことばで説明できるようにしたい。少なくとも専門分野の基礎的知識は理論も実験でもしっかり身に付いていることを語れるくらいになってほしいものです。また、部活動など練習や大会を経験してどのような成長を遂げたか、プロジェクト・サークル・インターンシップなどでも結構ですが、高専時代の活動事実に基づいて自分なりのエピソードを語れるかどうか、です。現在については、自分の能力と性格を仕事に活かそうな長所と短所に分けて整理してみることでしょうか。未来に関しては、自分は将来何をやりたいか、どんな自分を作ろうとしているのか、若者らしく熱意をもって話せるようになってください。

まとめると、低学年から学生としてやるべきことをしっかりやっておくことと「彼を知り己を知れば百戦危うからずや」の精神で取り組めばきっといい結果につながると思います。低学年から実施している本校の「キャリアデザイン」教育の長い道のりの最終ゴールが皆さんにとって最良の進路選択と決定になることを願って結びとします。

ソーシャルドクター



副校長(教務主事)
石原 学

最近の高専をめぐるタームの一つに「ソーシャルドクター」という表現が活字で出ています。「ソーシャルドクター」とは、社会のお医者さんとのことです。これは、高専生が地域の課題解決を「社会実装」と呼んで、実社会で解決できる仕組みを考え提案し実現するなど貢献していることにより、高専生はより地域に密着した活動と技術で、各種の問題を解決することが求められています。このことは、高専での日々の学習と実技を身につけることにより、実社会での問題を見極め解決まで模索できる能力が求められていることにより、そのためには、幅広い問題意識と高い技術力が求められます。時代は変化し求められるものも変化します。多様性に対応し社会活動を通して人間性の豊かさを持って人間社会をよりよくするための技術を身につけてくれることを期待します。

自分らしさを忘れずに



校長補佐(学生主事)
飯島 道弘

みなさんは、これから様々なことを経験し自分の可能性に気付いていくでしょう。自分の可能性を拓げるためにも新たなことに積極的にチャレンジしてください。また、それと同時に向き不向きに気付き悩むこともあるでしょう。迷ったら、初心に戻り、自分の目標を再確認し、周りの意見に流されずに自分のスジをしっかりと持ち続けましょう。経験が損になることはなく、「こうしなければいけない」という決まり事もないので、周りへ配慮しながら完璧でなくても自分らしく着実に前進することが大切だと思います。常に自分を信じて努力し歩み続ければきっと成功と言える時が来るでしょう。寒い時期にも多様な花を咲かせることのできる梅のように、小山高専に強く根を張り、自分の目標に向かって少しずつ成長し、自分なりの花を咲かせてみましょう。皆さんの活躍を心から期待しています。

学寮の目標・学校への影響



校長補佐(寮務主事)
鈴木 真ノ介

昨年度に引き続き寮務主事を拝命致しました電気電子創造工学科の鈴木真ノ介です。よろしくお願ひ致します。学寮では「自立」と「自律」を実践できる寮生の育成を目標として掲げています。高専生が「生徒」ではなく「学生」として扱われることに加えて、生活の場においても自分で考え、自分をコントロールすることを求めています。寮務主事として寮生諸君には、是非ともその好影響を学校全体に波及させてもらいたいと切に願っています。

学寮では、昨年度から高専機構本部プロジェクトの学生間支援活動部門に採択され、留学生を交えたグローバル化推進プログラム等に取り組んでいます。今年度は本活動を通学生にも展開することや、学生間支援を学習や生活の域にも拡張することを計画しています。今後の学寮諸活動にご注目ください。乞う、ご期待！

専攻科20年これから！



校長補佐(専攻科長)
伊澤 悟

小山高専に専攻科が出来て20年が経過します。専攻科って何？から始まり、様々な経験を経て今に至ります。学士(工学)を取得する面では大学と同等ですが、高専本科に継続する大学とは異なる教育システムにこだわっています。研究継続の面で大きなメリットがあり、大学コンソーシアムや様々な学会で、毎年のように学生が受賞しています。実務研修、ユニークなデザイン科目等で、技術者の総合力養成を目指しています。専攻科での学習を通じて学生が実力をつけることが王道、結果社会的な認知にも繋がると考えています。これからの20年を見据えて常に研鑽をしながら、0.1% (同世代で専攻科に進学する学生の割合) の教育機関の実力を上げる工夫をしたいと思っています。

◆学級担任等の紹介◆

専攻科



機械工学コース主任
今泉 文伸
機械工学科



電気電子創造工学コース主任
平田 克己
電気電子創造工学科



物質工学コース主任
田中 孝国
物質工学科



建築学コース主任
堀 昭夫
建築学科

機械工学科

電気電子創造工学科

電気電子創造工学科

物質工学科

建築学科

5年



今泉 文伸
機械工学科



サム アンラホック
電気電子創造工学科



鹿野 文久
電気電子創造工学科



酒井 洋
物質工学科



佐藤 篤史
建築学科

4年



増淵 寿
機械工学科



小林 康浩
電気電子創造工学科



北野 達也
電気電子創造工学科



笹沼 いづみ
物質工学科



安高 尚毅
建築学科

3年



那須 裕規
機械工学科



秋元 祐太郎
電気電子創造工学科



千川 尚人
電気電子創造工学科



西井 圭
物質工学科



崔 熙元
建築学科

2年



杉山 桂子
一般科



渡邊 扇之介
一般科



中川 英則
一般科



有坂 顕二
一般科



吉村 理英
一般科

1年

1組



柴田 美由紀
一般科

2組



佐藤 宏平
一般科

3組



長峰 博之
一般科

4組



関根 健雄
一般科

5組



岡田 崇
一般科

新任教職員挨拶



機械工学科
増山 知也

高校を卒業して宇都宮を離れて以来、ほぼ30年ぶりに栃木に帰って参りました。平成の御代の間に栃木もずいぶん変わったように感じます。新しい道路ができたり、新宿駅や横浜駅、その先まで乗り換え無しで行けるようになったり、合併で市町村名が無くなっていたり。一方で、北関東らしい乾いた空気の向こうに見える男体山や筑波山の姿はまったく変わっておらず、懐かしい思いで一杯です。

さて、高専という「最新の技術を学ぶことのできる学校」と知られています。もちろんその通りなのですが、最新の技術を支えているのは、普遍的な学問知識であるという意識を持つことが大切ではないでしょうか。確かな力学、物理学、数学の知識に基づいて機械を造ることの面白さ、自分が造った機械が思い通りに動いたときの達成感を皆様と分かち合えたらと願っています。小山高専を一層良い学校にすることに少しでもお役に立てたら幸いです。よろしく願い申し上げます。



電気電子創造工学科
床井 良徳

みなさんこんにちは。4月に電気電子創造工学科に赴任致しました床井です。本校OBで、18年ぶりに小山に帰ってきました。高専には独特の雰囲気があり、高校でも大学でもない先生方と学生さんの絶妙な距離感が好きで高専教員になりました。前職の長岡高専では、学生のみなさんと一緒にモノづくりをしながら、ロボットの世界大会でワールドチャンピオンになった学生とともに教員として技量を磨いてきました。

学生のみなさん、せっかくの高専生活、ものづくりや科学技術を通じた活動を思いっきり、そして思う存分してみませんか!? 5年間で、普段の授業5000時間、課外活動5000時間、合わせて1万時間、ここまで来ると「つらいけど楽しい」という不思議な感覚に達します。自己ベストで、色々な事にチャレンジして欲しいと思います。そのためのバックアップをしたいと思います。高専での主役は学生のみなさんです。遠慮せずに、まずはご相談を!!



建築学科
KIM JUNHO

建築学科の助教のKIM JUNHOです。日本の年号が変わるとしても意味ある年に小山工業高等専門学校から自分の助教としての教育や研究を始める事になり、この年は自分にとって意味深い年です。この年に皆さんと同じ場所にいる事ができ嬉しく思っております。

今まで、勉強も仕事も学校で行っておりましたが、高等専門学校という日本独自の仕組みの学校は初めてであり、これからも新しい経験ができる事に対する楽しみと初めての教育や研究である為頑張りたいと思っております。また、小山市は、韓国での自分の地元の天気ととても似ていて、毎日晴れた空を見ることができ心地良いところだと思っており、寒い北海道から自分の地元に戻っている気がしてとても気分がいいです。教職員の皆さん、学生の皆さんこれからどうぞよろしく申し上げます。



学生課長
飯島 賢道

本年4月に学生課長として着任しました。採用は、電気通信大学会計課になりますが、独法化前17年前にこちら小山高専の会計課におりました古巣への復帰となります。前任は、仙台高等専門学校広瀬キャンパス学務課長で、同じ学生業務を3年間経験させていただきましたので、その多くの経験を生かしたいと考えております。

なお、出身母体は国立大学法人宇都宮大学になります。同大では、会計、学長秘書、産学地域連携、総務企画、生涯学習、学務関係などを担当しました。学務系は主に入試、留学生・国際交流の仕事をしていただいております。まだ、感覚的に不慣れな点がありご迷惑をおかけしますが、古巣小山高専のさらなる発展、学生サービス向上のため微力ではありますが、皆さまと協力して取り組んでいきたいと考えております。

また、小職のモットーは、「日々成長する」です。立ち止まらず、色々な経験を通じて、自分も組織も日々成長することを目指してがんばりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

平成30年度 卒業式・修了式

平成31年3月19日、小山市立文化センターにおいて平成30年度卒業証書授与式・修了証書授与式が挙行され、本科卒業生176名、専攻科修了生26名が学窓を巣立ちました。



卒業生代表の言葉

H30 建築学科卒 鳥羽 潤

長く続いた冬の寒さもようやく遠のき、春めいた暖かな日々の到来が感じられるころになりました。本日は、私達第四十九期卒業生のためにこのような素晴らしい式を挙行していただき、卒業生一同を代表して厚く御礼申し上げます。平成最後の記念すべき年にこうして卒業を迎えられる事を皆、大変うれしく思っております。またお忙しい中ご臨席賜りました来賓の皆様、校長先生をはじめ、諸先生方に、心より御礼申し上げます。

今、卒業を前にして、五年前、小山高専の一員として迎えられた入学式と始業式の事を思い出します。中学校を卒業しそれまで慣れ親しんだ仲間と離れ、大きな期待と不安を胸に抱きながら小山高専という新しい環境に飛び込みました。5年間は瞬く間に過ぎ去っていきましたが、振り返るとたくさんの思い出が溢れだしてきます。エスキースを繰り返し、時には徹夜して図面を描いた設計課題、主体となって休憩所を製作した文化祭、昼休みや放課後に練習し優勝を勝ち取った球技大会、実際に設計事務所です仕事を体験させて頂いたインターンシップ、自身で決めたテーマに取り組んだ

卒業設計などここでは言いきれないほどたくさんの思い出があります。こうして小山高専で充実した五年間を過ごせたのは、素晴らしい個性と価値観を持ったクラスメイトや先輩、後輩、先生方に恵まれた事、そして自由な小山高専の校風があったからこそだと思います。

四月より私たちはそれぞれの新しい道を歩みはじめます。将来の為にやるべき事を決断し社会へ踏み出す者もいれば、夢へと向かいさらに勉学に励む者、新たな挑戦を試みる者もいると思います。それぞれ向かった道の先では試練や困難に直面する事もあるかもしれません。しかし小山高専で得た知識や経験を活かせば乗り越えられると信じています。また、その経験や知識を活かして社会へ貢献することが私達卒業生の使命であり、小山高専への恩返しになると思います。

最後になりましたが、私たちが今こうして無事卒業を迎えることができるのも、先生方や職員の方々、そしていつも暖かく見守ってくれた保護者の皆さまのおかげです。重ねて、心から御礼申し上げます。



平成31年度 入学式

平成31年4月2日、本校第一体育館において、平成31年度入学式が挙行されました。本科新入生204名、留学入学者4名、編入学者2名、専攻科入学者22名の合計232名に校長から入学許可宣言があり、入学者宣誓、校長告辞、在校生代表の歓迎の言葉、新入生答辞、国歌斉唱が行われました。



歓迎の言葉

機械工学科5年 大金 禎仁

入学生の皆さんご入学おめでとうございます。在校生を代表して、皆さんのご入学をお祝い申し上げます。

入学生の皆さんは、これから始まる高専生活に期待と不安を抱いておられることと思います。皆さんが高専生活を有意義に過ごせるように私から皆さんへ二つのアドバイスを送りたいと思います。

一つ目は部活動や委員会など様々な課外活動に積極的に参加することです。本校には、全国高専大会に出場している部活動や、非常に活発に活動している委員会があります。さらに、ロボットコンテスト、デザインコンペティションやプログラミングコンテストなどの校外コンテストに参加することもできます。これらの経験は、高専生活をより充実させ、よい思い出になるだけでなく、自分が高専で何をしたいのかということをも新たに発見するきっかけになるとと思います。

二つ目は周りの人を頼ることです。高専には優しい先輩や先生方がたくさんいます。悩みを相談することや質問することは決して恥ずかしいことではありません。高専生活は五年間と長いですから、わからないことをあやふやにしていると後々大変な思いをします。積極的に質問をして不安材料は早めに消しておきましょう。

最後になりますが、ロサンゼルス・エンゼルスに所属する大谷翔平選手の言葉を新入生の皆さんに送ります。

「誰かがやったことをやるんじゃなくて、その上をとにかく超えていく。何か大事を成し遂げた人って、人々がムリだって不可能だって言ったことに対して『いや、できる』と思ったものが新しいものを作っていた」

皆さんも「いや、できる」ということを忘れないでください。

これから始まる皆さんの小山高専での生活が実り多いものとなることを願いまして、歓迎の言葉といたします。

新入生に贈る言葉

道を拓く

1年1組担任 柴田 美由紀

人生は選択の連続です。そして、その選択にはいわゆる「正解」というものはありません。人生の岐路において一つの道を選んで歩き始めてからも、「この道で本当に良かったのだろうか。別の道を選択したほうが良かったのではないか。」と自問自答し、あるはずのない「正解」を外に求めて悩むのが人の常ですが、求めすぎて自分を見失い迷子のような気持ちになってしまうのは辛いですね。

「正解」のない人生をどう生きるか。これは難しい問いです。でも、これだけは言えそうです。正しいかどうかは分からないが、日々の自分なりの精一杯の「解決」ならできそうだと。もしかすると、いまここで自分が行っている小さな「解決」の積み重ねが道を作っていくのかもしれない。道は前にあるのではなく、後ろにできる。どんな道が作れるか、どんな道を作っていききたいか——。新しい仲間と一緒に歩いていきましょう。はるか先には、人のために道を切り拓くことの喜びが待っています。



さあ、みんなで考えよう！

1年2組担任 佐藤 宏平

巷の名言の中に「人間は考える葦である」というものがあります。パスカルの『パンセ』という著作を由来とした言葉で、その真意は「人間は、自然界の中で葦のように弱い存在であるが、思考力という強みを持つ尊い存在でもある」ということだそうです。では、考えない人間は単なる葦なのか？と問えば、そうではありませんが、個人的には、考える事の多い人間ほど将来が明確になり、また、より人間臭くなるだろうと考えています。なぜなら、「考える」という行為は、未来志向であり能動的であるからです。他方、「思う」という行為は、どちらかと言えば過去を連想させるものであり受動的です。

皆さんが、5年間の高専生活の中で、様々な物事について考え、個々それぞれの将来を明確にし、個性を獲得していくことを期待しています。是非、考えることを日頃の癖にしてください。何かを思う（想う）時間も大切ですが、若人には考える時間こそ貴重です。





「Disce gaudere」

1年3組担任 長峰 博之

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。高専生活の船出にあたって、みなさんに「Disce gaudere（楽しむことを学べ）」という言葉をご紹介します。古代ローマのセネカという人の言葉で（セネカ『倫理書簡集』）、なかなか含蓄のある言葉なのです。

高専生活（あるいは人生）には、大別して「やりたいこと」と「やらなきゃいけないこと」があると思います。「やりたいこと」をやっているときはとても楽しいはずですが、どんどんやってください。突き進んでください。では、「やらなきゃいけないこと」はどうでしょう？それは往々にして困難さをともないます。でも避けては通れないのです。しかし、ご安心あれ。なんと、何事も真剣に取り組めば、楽しくなる瞬間がやってくるのです！困難さのなかに楽しさを見つけてください。多少やりたくないことでも、どうせなら楽しくやった方が人生得です。「やりたいこと」と「やらなきゃいけないこと」をどちらも楽しくやる、そうすればきっとみなさんの高専生活は〇〇色になるでしょう（〇〇には好きな色を入れてください）。

Disce gaudere！



“That Gorgeous Loneliness and Splendid Isolation”

1年4組担任 関根 健雄

この言葉は、Native American (Spokane-Coeur d'Alene) の詩人・作家・映画製作者の Sherman Alexie (1966-) が、自伝的ヤングアダルト小説 The Absolutely True Diary of a Part-Time Indian (2007) で全米図書館賞を受賞した際のスピーチの一節です。彼は、幼少期に読んだ物語の主人公たちに見出した「絢爛たる孤独と荘厳たる孤立」に後押しされ、様々な困難や挫折を克服しクリエイターとしての一步を踏み出したと語りました。この作品の主人公は、怒ったり泣いたり笑ったり、助けたり助けられたりしながら、既存の枠組みや固定概念を乗り越えて自分自身の世界を広げていく力強さを獲得します（詳しくは本書を読んでください。翻訳もあります）。

社会の変化がますます加速している現在、新入生の皆さんは、正に、「未知の世界」の入口に立っています。これから出会う全ての「人、もの、こと」から学び、大切にするとともに、「未来」に向けて果敢にチャレンジできる「あの絢爛たる孤独と荘厳たる孤立」を兼ね備えた人になって、活躍できる高専生になってほしいと願っています。





自己紹介（英語，ポルトガル語，日本語）

1年5組担任 岡田 崇

I am an associate professor in mathematics. I would like you to enjoy mathematics and other subjects in your study and research. If you have questions in mathematics, let me know!

Eu sou um professor de matematica aqui. Gostaria que voce se divertisse com matematica e outros assuntos para seus estudos e pesquisas. Se tiver perguntas em matematica, deixe-me saber!

私は、こちらの数学の准教授です。
皆さんが、ご自身による勉強や研究のため、数学や他の科目を楽しんで頂けるよう願います。数学の質問があれば、どうぞ！



令和元年度 行事予定

月	日	行事	月	日	行事	月	日	行事
4	2	入学式		13～9/27	夏季休業	12	7・8	デザコン2019
	3	始業式		17～9/1	全国体育大会		24	各HR・大掃除
	3～4	新入生ガイダンス		24・25	文化発表会		26～1/3	冬季休業
	4	健康診断	9	30	後期始業式	1	6	授業開始
	24	開校記念日	10	6	ロボコン地区大会		18	推薦選抜検査
5	14	前期球技大会			13・14	プロコン2019	2	25・26
	29～6/4	前期中間試験	16		後期球技大会	5～12		学年末試験
6	22	保護者会	11	1	防災訓練		12	全校集会・大掃除
	29～7/21	地区体育大会		1・2	工陵祭準備		16	学力選抜検査
7	26～8/1	前期定期試験		3・4	工陵祭		21	HR・掃除
8	1	全校集会・大掃除		23	地区英語弁論大会		3	6
	3	オープンキャンパス	24	ロボコン全国大会	11	1～4年生判定会議		
	8	HR・掃除	27～12/3	後期中間試験	19	卒業式・修了式		

関東甲信越地区高等専門学校体育大会開催案内

種 目	開 催 校	開 催 期 日	競 技 会 場
陸上競技	茨城工業高等専門学校	6月29日(土) 6月30日(日)	長野市宮陸上競技場
水 泳	長野工業高等専門学校	7月21日(日)	長野運動公園総合運動場総合 市民プール(アクアウィング)
野 球	長野工業高等専門学校	6月29日(土) 6月30日(日) 7月1日(月)【予備日】	A会場：長野オリンピックスタジアム B会場：中野市宮野球場
バレーボール	小山工業高等専門学校	7月12日(金) 7月13日(土)	栃木市総合運動公園総合体育館
バスケットボール	サレジオ工業高等専門学校	7月6日(土) 7月7日(日)	日本工学院八王子専門学校八王 子キャンパス体育館
サッカー	茨城工業高等専門学校	7月6日(土) 7月7日(日)	ひたちなか市総合運動公園 陸上競技場 スポーツ広場
ラグビー			
ハンドボール	長岡工業高等専門学校	7月7日(日)	長岡市北部体育館
テニス	東京都立産業技術高等 専門学校(荒川キャン パス)	7月20日(土) 7月21日(日)	サニーインむかい共同テニス コート
ソフトテニス	群馬工業高等専門学校	7月6日(土) 7月7日(日)	ALSOKぐんま総合スポーツセン ターテニスコート (雨天時)群馬工業高等専門学校第一体育館・第二体育館
卓 球	東京工業高等専門学校	7月6日(土) 7月7日(日)	東京工業高等専門学校 体育館
バドミントン	長岡工業高等専門学校	7月20日(土) 7月21日(日)	長岡市北部体育館
柔 道	木更津工業高等専門学校	7月20日(土)	千葉県総合スポーツセンター 武道場第2道場
剣 道	東京都立産業技術高等 専門学校(品川キャン パス)	7月20日(土)	東京武道館 第二武道場



オーストラリア語学留学



平成 31 年 2 月 23 日（土）から 3 月 9 日（土）の 15 日間、ケアンズの Cairns College of English & Business の英語学習プログラムに他高専学生を含めて 13 名の学生が参加し、企業訪問、現地高校生との交流を行ってきました。今年度からは 1 年生からの参加が可能となり、一般科単位として 1 単位の単位認定制度を設けました。以下は参加学生の感想文です。

私の一番の目的は異文化を積極的に体験することでした。出発する前の私は外国人と会話をすると言う機会が減多になく、自分の英語は伝わるのか、会話が詰まったらどうしようなど不安がありました。到着後からいきなり英会話の嵐だったのですが、現地の方々はとても優しく、緊張して上手く英語を話せていない私に対し聞き取れるまで何度も繰り返してくれたり、こっちが話すまで待ってくれたり日本では体験したことのない思いやりだったので感動して涙が出そうでした。本当の本当にオーストラリアの方々、陽気でフレンドリーで私の世話を一生懸命してくれて、一生忘れないとても濃い思い出をくれました。心の底からもう一度行きたいと思っています。

機械工学科 3 年 中尾 優作



『自分の事が良く分かった』この留学の経験は二つの意味でそんな経験でした。一つ目は単純に英語力の低さを実感しました。数日間は相手が言っている事がほとんどわかりませんでした。しかもこちらが話そうとしても言葉が出てこなくて無言になってしまいました。ですが何日か経つと何かが吹っ切れたように自然と話せる様になりました。二つ目は異文化に触れたり、綺麗な海や熱帯雨林を見た事で無知な自分に気が付きました。ただ話を聞くだけだと『ふーん』で終わってしまうかもしれませんが実際に体験するととても驚きます。最後に、英語に苦手意識を持っている人や、何かしたいけど踏み込む勇気のない人には是非参加してもらいたいと思います。

電気電子創造工学科 3 年 神山 司樹

進路について深く考え始めた二年生の後半、自分の将来のためにどの道を選ぶべきか悩んでいました。漠然と海外への憧れはあったのですが、高専に入ってから日本の住宅だけでなく海外の住宅に興味を持ち始め、海外の大学に行くことや海外の建築事務所で働くことを視野に入れ始めました。そのための第一歩として今回参加を決心したのです。人と話すのが好きな私は英語への不安より行くことが楽しみで仕方がなく、荷物の重量は制限ギリギリで出発しました。何よりも嬉しかったのは、ホストファミリーに私のジョークが通用することでした。短い期間ですが本当に家族のように過ごせた事、強く感謝しています。語学力がついたこともそうですが、人との出会いによって自分がより成長できたと実感しています。

建築学科 3 年 橋本 麗



活躍するOB・OG

旭化成株式会社

H25 物質工学コース修了 黒須 友紀

現在私は化学素材メーカーで研究開発職をしています。今販売されている製品の改良はもちろんのこと、新規製品の開発も任される、責任のある仕事です。研究室では高分子合成をしていましたが、偶然にも担当製品が「プラスチックフィルム」となじみ深いもので、高専で培ってきた知識が生かれています。中には急ぎで対応しなければならない案件もありますが、在学中に身に付けたスケジュール管理能力を生かし、期日にきちんと間に合わせる事ができ、毎日ハツラツと働いています。

テストやレポートで培った勉強・調査方法・スケジュール管理能力、そこで得られた知識、在学中で得た対人能力、プレゼンで得た資料作成・発表能力など、全て今の私の大切な財産です。在学中には疑問に思いながらやっていたものですら決して無駄にはなりません。就職してから発揮する場面は沢山あります。学業だけとは言わず、趣味の知識でも構いません。バイトも適度な方がいいと思います。在学中に自分の強みをひとつでも多く作ってください。(あと英語もやった方がいいですよ！)



実験設備の一部です。
業務上、フィルム特性を測定する機会が多くあります。



オフィスの風景です。



海外展示会でドイツに訪問した際の写真です。

部活動報告

バレーボール部活動紹介

バレーボール部一同

小山高専バレーボール部は、数年前の廃部の危機を乗り越え、男子部員10名+a、女子マネージャー4名で活発に活動しています。部長3A青柳君、副部長3M山口君と5C渡辺君、会計3A竹中さんの下、第一体育館で週3日活動を実施しています。夏休みなどの長期休業期間中は、集中練習を実施しています。学外活動としては、小山市の社会人チームとの練習試合および、他高専（群馬・サレジオ・産技品川など）との練習試合を活発化させ、交流の輪を広げています。

大会参加実績としては、高専地区大会の他に、年に3、4回開催される小山市民大会に参加しております。小山市民大会では、毎回3、4位になり参加賞（タオル）を得る実力があながら、地区大会の1勝および全国大会への出場に手が届かない、実に伸びしろのあるチーム状況です。

令和元年、記念すべき地区大会が小山で開催されることから、現在部員達は、張り切って練習に励んでいます。伸びしろのありすぎる、バレーボール部への入部と応援をよろしくお願いいたします。



地域連携協力会会員紹介

「昨日まで世界になかったものを」

旭化成カラーテック株式会社
代表取締役社長 矢内 兼仕

当社は旭化成グループの会社であり、旭化成ブランドの高機能プラスチックを中心とした着色・コンパウンド加工を行う製造・販売会社です。

旭化成グループにおける当社の役割として

- 1) 生産拠点として、旭化成ブランドの高機能・高品質プラスチック製品をお客様にお届けする。
- 2) 技術発信基地として、旭化成グループの国内外生産拠点へ発色・コンパウンドの生産技術を提供する。

当社は当社のもつ高い着色・コンパウンド技術に基づいた高機能・高品質プラスチック製品の市場展開により、世界中のお客様の満足に貢献しております。

社員の福利厚生でも、グループ会社共通の共済制度等の家族を含む充実した福利厚生制度があり安心して働ける環境を整えております。

当社は旭化成グループの経営理念「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します」を礎として生産活動に取り組んでおります。

小山高専の学生の皆さん、「健康で快適な生活」「環境との共生」の実現を通して社会に新たな価値観を提供していけるよう共に成長して行きましよう。



学寮ニュース

令和元年 前期寮長 建築学科4年 木村 龍汰朗

時が過ぎるのは早いもので、私達青嵐寮生は新入寮生を迎えてから、すでに2カ月が経ちました。4月から新入寮生歓迎会、寮生ソフトボール大会、寮生主催のレクリエーションなど、企画が盛り沢山でした。初めは緊張していた1年生も次第に笑顔が増えてきて、とても嬉しく思います。

よく寮生活はつらく厳しいものだと思われがちですが、友と毎日を過ごし、自己を高められる環境はとても貴重だと思います。私の友は、「毎日が修学旅行だ」と言っていました。遊び、学び、交流し、楽しくて仕方ありません。このような日々を、私は「日日是好日」と呼んでいます。元々は禅の言葉なのですが、「毎日が好い（良い）日だな。」という意味があります。私達にとって今の状況は、どんな状況でも必ず私達の人生に意味のあるものです。寮生活での積み重ねが私達の毎日を好日にしてくれます。新入寮生の皆さん、今の一瞬一瞬を楽しんでいきましょう。これからよろしくお祈りします。



学生会ニュース

新入生歓迎会
開催!!



高専ビンゴ



部活動紹介



こんにちは、学生会執行部広報局長の中嶋です。新入生の皆さん、もう小山高専には慣れましたか？さて、4月10日（水）に学生会執行部主催の新入生歓迎会がありました。新入生歓迎会では、高専ビンゴと部活動紹介を行いました。

高専ビンゴとは、学科や寮生か通学生、出身地などが書いてあるビンゴを周りの人に自己紹介を含め埋めていくという高専ならではのビンゴゲームです。優勝したクラスには、学生会執行部より3000円分のお菓子とジュースが贈られました。入学して間もない中、ゲームを通じて知らない人とも仲良くなれたように見えました。

部活動紹介では、それぞれの部活動が自分たちの紹介やパフォーマンス等をしてくれました。各部会動の代表者の真剣な発表に新入生の皆さんもそれに応えるような真剣なまなざしでその発表を聞いていました。

小山高専には高専ならではの様々な部、同好会、愛好会があるのできっと自分に合ったものが見つかる筈です。もしそれでも迷っている人がいれば、ぜひ学生会執行部へ！！

今回の新入生歓迎会が皆さんにとって少しでも為になったのなら、幸いです。

最後に、皆さんの高専生活が素晴らしいものとなりますように。

機械工学科3年 中嶋 匠

学生時代の思い出

建築学科 准教授 安高 尚毅

私の学生時代の話からみなさんの人生の参考になれば幸いです。私が建築の道を志したきっかけは、通っていた高校の裏山に磯崎新氏が設計した北九州市立美術館が建っていて、その建築に感銘を受けたからでした。磯崎さんみたいな建築家になりたいと思ったものです。

建築家を志した僕は進路を普通の工学部の建築学科ではなく芸術工学部という学部で建築を勉強することを選択しました。

大学のキャンパスは香山壽夫氏が設計したキャンパスで、これにも感銘を受けました。また、大学の先生方は自分が体験した海外の建築スライドを多く見せてくれ、その影響も受けます。大学2年の夏休みにアメリカ1周と大学院時代の夏休みにヨーロッパを旅しました。特にヨーロッパの町並みが印象に残っています。これらの建築的体験が建築のモチベーションを高めてきたと思います。建築の勉強は良い建築を見ることが一番です。特に旅は建築の学生でなくても異なる文化に接することで自分の教養を広げることになると思います。是非、皆さんも海外体験をしてもらい感性を磨いてもらいたいと思います。



ニューヨーク▶
自由の女神をバックに

◀エーゲ海の
サントリーニ島にて

研究室紹介

物質工学科 有機合成化学研究室
教授 亀山 雅之

私たちの研究室は1990年に誕生以来、高選択的炭素-炭素結合生成反応の開発を基本として教育研究を行ってきました。最近では炭素5個からなる骨格の有機合成化学的な利用法に興味を持っています。論文等によく知られた反応から最近脚光を集めている手法まで、高専生でも実施可能な手法を用いて色々な挑戦を繰り返しています。他高専および長岡・豊橋技術科学大学の有機化学系教員の方との協力もこの研究の重要な支えとなっています。

基礎的な有機合成化学の研究のため容易に成果を得にくいだけでなく、実験時間と研究費さらに教員の能力に限界があるため、学生に負担をかけていることが悩みの種です。一方、当研究室での生活をきっかけに大学・大学院では高度で新しい有機化学に取り組む多くの学生が育っていることは、私の大きな喜びです。

炭素5個からなるユニットへの新しい高選択的炭素-炭素結合生成反応の開発に成功し、有機合成化学の教科書に新反応として取り上げられることを目指して、これからも挑戦を続けます。



▲研究室メンバー

独立行政法人 国立高等専門学校機構

小山工業高等専門学校

〒323-0806 栃木県小山市大字中久喜771 TEL.0285-20-2100

編集：小山高専広報戦略室 発行：2019. 6